

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第608号 2020年10月11日

鈴木真師ミサ説教

8月16日・年間第20主日：マタイ15・21-28

なんとも感じ悪い箇所ですね。こんな排他的なことをイエスが本当に言ったとは、どうも思えません。聖書学者によると、ここはマタイ福音書の母体となったユダヤ人キリスト者の共同体の意識か主張が形になった部分…というのですが、では、ここに置かれた福音的メッセージとは何でしょうか。ここで言う「立派な信仰」とは何か？ということだと思います。それは、この箇所から、つい印象を持ってしまう、救いをひたすら求め続ける…ということではなく、むしろ〈神さまは必ず救ってくださる〉ということを感じていること、そこに目を向け続けることなのだと思います。よく誤解されがちですが、わたしたち人間がまじめに暮らして、良いことをたくさんすれば神さまが救ってくださる、という構図は間違っています。まず先に神さまの救いのわざがあって、しかも、無限で無条件の神さまの愛が示されている。それに気づいたとき、そこにまっすぐ目を向け続けること…それが信仰なのだと思います。だからこそ、「信じる」とは「感じる」ことでもあるのではないのでしょうか。



もしかしたら、わたしは自分が幼児洗礼者だから余計そういう感覚を持つのかもしれません。わたしは自分が幼児洗礼であることに反抗したことはないですが、大学生のころ「自分で選んでいない」と

いうことがずっと心に引っかかっていました。だから改めて自分が置かれたキリスト教という信仰をきちんと捉え直してみたかった。それがまあ、神学校というところで学んでみたいという、いわば不純な動機につながったわけですが…。幼児洗礼者であるわたしにとって神さまは常に身近な存在だったし、その神さまに「祈る」ということも、ごく自然なことでした。ただし、その神さまに自分が「呼ばれている」という自覚がなかった。よく話すことで、神学校入学を考え出したわたしは、そこに不安を覚えて出身である由比ガ浜教会の聖堂に毎日のように通って神さまに祈りました。「神さま、もしあなたがわたしを呼んでくださっているのだったら、一言『オイ』って言ってください。どうぞ！アーメン…。あれ、恥ずかしいですか？ 小さな声でもいいですよ。『オイ』って。どうぞ！アーメン」なんていう自分勝手な祈りを、でも、その時は真剣にしていました。幸か不幸か、「オイ」とは聞こえてきませんでした。でも後から気づいたのです。そんな祈りをするずっと前から、すでに神さまから呼ばれていたことに。それに気づいたのは、これも何度も言うことですが「神さまが」という視点に立ったときでした。神さまは今まで自分に何をなさって来たのだろう、今、自分に何を求めておられるのだろう…。今まで「自分がやってきた」「自分で選びたい」という視点でばかり考えていたときには気づかなかったことでした。〈すべては神さまのわざ、神さまの導き〉ということが。だからこそ、わたし

にとって「信仰」とは、『神さまがなさっていること、愛しておられることを感じ、それに気づき、そしてそれを受け入れ、自分からもそれを求めて歩むこと』に他なりません。今日の「あなたの信仰は立派だ」という言葉の裏にも、あなたは神さまの愛を感じ、気づき、信じ、それを求めている…という要素があると思います。

神さまの、無限で無条件の愛を、いつも感じ、それに気づき、それを求めて歩みたいと思います。

